



福井県

中学校長会の窓

福井県中学校長会
福井県中学校長会広報部
宮田 写植 印刷
福井市春日1丁目7-4
TEL (0776)35-3865

第 144 号
令和 4 年 7 月 15 日 発行

第71回 福井県中学校長研究大会 若狭大会

令和4年5月13日(金)
小浜市ホテルせくみ屋

会長挨拶



福井県中学校長会

会長 坂田雄一
(成和中学校)

立夏も過ぎ、木々の若葉が日にこ

とに艶やかな緑色に変わり、初夏の香りが感じられる季節となりました。コロナ禍ではあります

が、「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産とされる、この若狭の地におきまして、

県下各地より中学校長会の会員が参集の下、令和四年度第七一回福井県中学校長

研究大会若狭大会を開催できましたこと、大変うれしく思います。また、本研究

大会には、公務御多用の中、福井県教育委員会教育長、豊北欽一様、小浜市長、松崎

晃治様、おおい町長、中塚寛様、若狭町長渡辺英朗様をはじめ、多数の御来賓の皆様

の御臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの出現から、三度目の春が過ぎようとしています。この

間、先行き不透明で予測困難な時代や Society 5.0 時代の到来が謳われる中、二

〇二〇年代を通じて実現すべき学校教育の姿として「令和の日本型学校教育」が提

言されました。御承知のとおり、これは、生徒が自らの手で未来を力強く切り拓く

資質を育むため、全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的

な学びの実現を目指すものです。これらが成果をあげるためには、学習指導要領

を着実に実施するとともに、学校における教育DXの更なる推進や次なるステ

ージに向けた働き方改革を進めることなどが

必要ですが、あわせて、正解主義や同調

圧力への偏りがちな生徒の実態からの脱却なども指摘されています。これまでの

日本型の学校教育の良さは受け継ぎつつも、新しい教育に向けてどうつなげるか、

学校現場がどう意識改革を図れるかが問われるのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、私たちは校長として、教育改革を真摯に受け止め、理解し、教育

理念を具現化して、新しい時代に沿う学校づくりを進めていかなければなりません。

また、予測困難な時代だからこそ、子供の生命を守り未来への生きる力を身につけさせる学校組織のトップリーダーたる

資質がこれまで以上に求められます。目指す学校像に向けて、必要な人材や組織

を適切にマネジメントできる、教育的リーダー、いわゆる「人を生かし、人を育てる

学校組織マネジメント」ができる校長を目指していきたいものです。

とは言うものの、学校現場では、いじめや不登校の問題、LGBT等に係る人権

問題、特別な支援を要する生徒への合理的配慮、保護者の多様な価値観への対応

等、子供の成長と徳育をめぐる今日的課題が多岐に渡っている事実です。この

ような中、教育を改革することやその形式にとらわれるあまり、教育の原点を

決して見失ってはならないと思います。「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」には、柔軟に対応していかねば

なりません。一方、忘れてはならないのは、子供たちの豊かな人間性や正義感、自尊心、思いやりの心を育むことなど、時代を超えても変わらない価値のあ

る教育実践、いわゆる教育の「不易」の部分であり、まずは私たち校長自身が、学校教育における「不易」と「流行」とをしっかりと見極めて取り組む必要があると思えます。これからの学校経営は、もはや既存の経験則だけでできる時代ではありません。校長として、明確なビジョンを示し、創意と活力に満ちた学校経営に努めることは言うまでもなく、刻々と変化する社会情勢を具に見取りながら、想定し得ない事態が起こりうるという前提に立った洞察力と知見、そして柔軟な思考力を備えておきたいものです。

本日の研究大会は、「新たな時代を切り拓き、より良い社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究主題に掲げ、県内の中学校長が、今日的な諸課題の解決に向けて顔を合わせて研さんを深める絶好の機会となりました。先ほどは、四つの分科会に分かれて熱心な研究協議を行っていただき、また、貴重な教育実践を御提供いただき本当にありがとうございました。

私ごとですが、管理職になりたての頃、先輩からこうアドバイスされました。「課題は比較的に見られるけれども、成果は見えない。学校経営で大切なことは、成果を「見える化」することだ」という言葉です。課題ばかりに目が行きがちだった当時の私にとっては、「目から鱗」でした。各学校におかれては、成果と課題を洗い出して今年度をスタートしたかと思えますが、それらを「見える化」するなどして教職員モチベーションにつなげていただくとともに、ひいては、子供たちがますます通いたくなる学校づくりにつながりますことを切に願っております。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、御指導と御支援を賜りました小浜市、高浜町、おおい町、若狭町の各市町当局をはじめ、福井県教育委員会ならびに若狭地区の各市町教育委員会に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、開催準備や運営に御尽力いただきました若狭地区の校長先生方に心から御礼を申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

役員名 列

令和4年度
福井県中学校長会

- | | | |
|-----------|-------|-------|
| 会長 | (成和) | 坂田 雄一 |
| 副会長 | (三国) | 黒川 智幸 |
| 副会長 | (上中) | 玉井 茂博 |
| 会計監査 | (勝山郡) | 山口きみ子 |
| 会計監査 | (気比) | 木原 茂子 |
| 理事(福井) | (成和) | 坂田 雄一 |
| 理事 | (森田) | 向当 誠隆 |
| 理事 | (社) | 安本 桂樹 |
| 理事 | (永平寺) | 竹内 康高 |
| 理事(坂井) | (芦原) | 松原 正恭 |
| 理事 | (三国) | 黒川 智幸 |
| 理事 | (尚徳) | 土蔵 清治 |
| 理事(奥越) | (勝山郡) | 道関 直哉 |
| 理事 | (鯖江) | 鈴木 和欣 |
| 理事 | (織田) | 林 明宏 |
| 理事(南越) | (武生第) | 松澤 紳 |
| 理事 | (池田) | 平井 浩一 |
| 理事 | (南越前) | 今村 憲和 |
| 理事(二州) | (松陵) | 金井 光広 |
| 理事 | (美浜) | 高木 健吾 |
| 理事(若狭) | (上中) | 玉井 茂博 |
| 理事 | (高浜) | 時岡 常和 |
| 理事(中教研) | (粟) | 山本 裕一 |
| 理事(中体連) | (明倫) | 小林 孝史 |
| 理事(教育研究) | (天安寺) | 竹本 俊穂 |
| 理事(人事財政策) | (明道) | 新道 正芳 |
| 理事(進路対策) | (足羽) | 野路美智男 |
| 理事(広報) | (春江) | 市村 直哉 |
| 理事(学力診断) | (光陽) | 真弓 淳 |
| 庶務幹事(庶務) | (進明) | 合川 修一 |
| 庶務幹事(会計) | (大東) | 水野 克己 |
| 事務局員 | | 小島 敏弘 |
| 事務局員 | | 五十嵐隆美 |

教育長挨拶

福井県教育委員会

教育長 豊北欽一 氏



第七一回という歴史ある県中学校長研究大会若狭大会の開催にあたりまして、お祝いを申し上げます。日頃から各校長先生には本県の中学校教育の向上に御尽力いただきまして、誠にありがとうございます。四月十二日の中学校長会の運営研究大会では、コロナ対策、池田中生徒自死事案を受けた再発防止の徹底、働き方改革、ふるさと教育、英語教育など、お願いしたいことを何点か申し上げます。本日は前回話さなかつたことをお話させていただきたいと思えます。

働き方改革について、令和三年度の時間外勤務の結果が出ました。中学校の場合、月四五時間以内が三

八・二％と四割にも満たず、四五時間以上が六割以上でした。また、年間三六〇時間以内が一・八％で、一割しか達成していません。八〇時間以上ゼロは原則当たり前なのですが、今、企業は月四五時間を超えると、ブラック企業扱いされる罰則もあるらしく、そういった状況の中で教員はこのままでいいのかというと、おそらく教員の世界も変わっていかねば優秀な教員は集まらないのではないかと危惧しています。本県の教員採用試験で、一番高い倍率は今から十四年、十五年前ですが、一二倍という時がありました。今は四倍弱です。教育学部に進んでも、教員にならずに民間企業に行ってしまう人が増えていると聞きますので、なんとか優秀な方に来ていただくためにも、教員の働き方改革を、ぜひ管理職としてしっかりと取り組んでいただきたいと思えます。学校現場を抱えていらっしゃるから、目の前の生徒への対応を最優先で行わないといけないと思えますけれども、やはり今までの当たり前ではなくて、何でも少しずつ変えていく、行事も変えていく、そういう姿勢でぜひお願いしたいのです。

インターネットで瞬時に検索して多くの情報を手に入れることができる昨今、重視されていますのが、取得した知識を活用し、探究することです。資料ページ、「探究学習とは」を御覧ください。これは、売れに売れている『高校生のための「探究」学習図鑑』(今年四月発行、六、六〇〇円)という本の要点を私がまとめたものです。私が作成したものでして、私の責任においてお配りしました。詳細に説明いたしませんけれども、探究学習とは、単なる調べ学習ではなく、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった「探究のサイクル」プロセスを通して行う問題解決的な活動であることとを御理解いただき、今後の参考にしたいと思っています。

若狭高校の校長をされていた中森学校長教育監曰く、「探究学習は課題設定がやはり大事。生徒が自らやりたいと思うことを探し、開かれた学校として地域の方々から伴走者のようにアドバイスを受け、試行錯誤する過程こそ大事で成果を求めない。失敗の経験や試行錯誤した過程を推薦入試の面接で説明できるようにしている。」とのことでした。

若狭高校では、最近、模擬試験の点数が全体的にとても上がっており、生徒の学ぶ姿勢が変わってきています。以前、オンラインで、若狭高校の教員と話をしたのですが、その先生御自身も楽しくなってきたとおっしゃっていました。ぜひ、中学校の校長先生も校内をあげて、生徒の探究マインドを育てていただきたいと思えます。

続いて、中学校における学習の習慣化について話します。先月十六日、高校一年生のための大学進学セミナーを開催いたしました。当日、河合塾の講師によるお話がありましたが、中学生にも共通すると思われる点だけお話をさせていただきました。別紙三ページ「学習のポイント」は当日示された資料から引用したものです。「定期考査、模試の活用、間違った時が伸びるチャンス」と書かれていますが、間違った部分の理解をその日に済ませることが、学力定着の基本です。皆さんの学校ではそれがなされているでしょうか。点数だけ気にして間違った問題の正しい解き方まで理解しようとしなくて、それでは生徒は伸びません。また、「友人に教える」ということも学力を伸ばすことにつながります。開成高校では、コロナ禍で生徒たちが教え合うということが密にならないか心配だったと聞きましました。先生が教えるのではなく、生徒同士が学び合う、そういった場も必要だと思えます。三ページの下に「学習実績表」がごさいます。歯磨きをしないと気持ち悪くなるように、勉強も習慣化することが大事です。勉強もこうして「学習実績表」で、科目ごとに色を分けて塗りつぶすなど、コツコツと習慣づけることが大事です。得意科目からやるのか苦手科目からやるのかは本人の意識しだいですが、勉強の習慣づけをぜひお願いしたいと思います。

四ページの資料は、昨年テレビで放送されました「ドラゴン桜」の最終回、阿部寛が演じた「桜木先生が生徒に最後に贈った言葉」と「東大合格必勝法家庭の10カ条」、「東大模試6カ条」は昨年六月県立校長会でお配りしたものでございます。高校入試に共通する点もあるかもしれないと思つたので参考までにお配りしました。

今、世の中の流れは、学習から学びへ、ティーチングからコーチングへ、ティーチャーからファシリテーターへと変わってきています。しかし、教員が知識を教え込む、手をかけるに越したことはないという意識が強く、生徒の時間を奪っていることはないでしょうか。身に付ける真の学力とは、自ら学ぼうとする力、自分が分からない点を分かるようにする力であり、自分で分からなければ周りの人の力を借りて理解しようとする力だと思えます。ぜひ、生徒自ら学ぼうとする力をつけさせてほしいと思えます。コロナ禍の中、大学入試で分かつたのは、学校任せ、教員任せの生徒は、主体的に学習する生徒に比べて結果が思わしくなかつたということです。また、文化祭、体育祭などでも教員主導ではなく、生徒たちが主体性や自主性をもって取り組むようにお願いしたいと思います。

本日お集まりの校長先生方の御健勝、御活躍と中学校長会のみますの御発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



福井県知事

杉本達治氏



ければいけないことは現場にある、ということとそこに県民の皆さんがいて、課題があつて、解決すべき問題があるということでもお話をしています。そういう意味では、校長先生方がいらつしやる場所そのものが現場ですの、各クラスがさらに現場ということになって、こういったものを大切に校長先生方はやられているのだろう、と逆に私が学ばせていただかなくてはいけないと思つています。

今日は限られた時間ですけれども、「夢と希望を持ち、福井を愛する子供の育成のために」という題を与えていただきました。この中の自身は、私が日頃から考えていることがほとんどですけれども、少しお話をさせていただきたいと思つています。最初は私が県政といつますか、マネジメント、特に県庁という組織を動かすときの考え方、もしくは職員と相対するときの基本的な考え方についてお話をさせていただきまふので、御参考にしていただけたらなと思つております。

今の教育大綱と教育振興基本計画について、書かせていただいております。福井県は皆様方のおかげで、学力・体力日本一、本当にトップクラスですつとやつてきている素晴らしい県だと思つています。家庭教育も非常に行き届いていて、私も実は子供を三年間、平成十六年から十九年まで福井市で育てさせていただいております。全国を転々としながら痛感するのは、とても落ち着いて授業を受けられる環境になつていふことで、家庭と学校とそれから地域が非常によく連携が取れている。もしくは、どちらかといふと、最近先生方の中でもこんなことはないぞ、といふ場合も多いかもしれないが、といふ場合は、はたから見ていると本当に親御さんも、あまり先生の批判といふよりは、先生に怒られれば、そんなお前が悪いと子供たちをしつめる家庭も多いと思つています。そういうことで、とても良いと思つておりますが、「学力・体力日本一」といふのは裏返して考えると、これは平均点教育ですね。平均点を上げていく教育として、福井県は大成功してい

る。しかし、これからの世の中は、やはり個性、もしくは一人一人が輝いている、こういうことがとても大切な時代だろうといふことで、今回の教育大綱、それから教育振興基本計画を作らせていただいているところだ。

四つの重点施策といふことで、まずは教育の観点から言いますと、個性を引き出す教育、興味・関心をもつて学びを楽しむ教育、ふるさと教育、この三つが大きな柱だと思つています。最近では、テレビを見ていて、そうだなと思つましたけれども、塾に通わせたり習い事をさせたりします。つい、私たちの世代は一番になるとか、キラリと光る何かを見つげ出せとか、そのようなことに、つい結び付けがちになります。みんな子供たちがより良く生きていく上で、もちろん良識をより深めていく、といふ意味でも習い事は大事でしょうけれども、さらに楽しいこと、好きなことを見つげるといふ意味でもとても大事なことで思つています。

そういう意味で、個性を引き出す、一人一人の個性を見つけてあげるといふことは、大事ですし、また仕事をしてもつづくと思つています。教えられて、何かを学ばなくちゃいけないと思つてやつていふときはつまらないのですけれど、興味とか関心のあることは、仕事をやつても楽しいです。興味関心をもつて学びを楽しくめる環境を作つていくためには、今のIT教育、タブレットを使つた教育は本当に重要だと思つています。そして、ふるさと教育です。こ

れも言わずもがな、福井県も外で活躍している子供も多いです。そういう子供たちは、ふるさとに対する思いが非常に強いと思つています。こういったことは、やはり小中学生のうちから身につけてもらうことがとても大事だと思つています。その上で、そういった教育環境を整えるためにも、先生方の働き方改革がとても重要だと思つておりますので、こういったことを校長先生方にもぜひ率先してやつていただきたい。その上でわれわれ教育行政、私どもでやるべきこととは、どんな提言をしていたらいいかと思つていふところがございます。

次に、校長先生方のリーダーシップといふこと、もしくはマネジメント能力についてです。まず、私が常にリーダーといふのはこういうものでなければいけないといふことで、自分自身に言い聞かせているのが「伝える」「決める」「責任を取る」といふことになりまふ。やはり、物事を組織として動かしていくときには、コミュニケーションは大事です。まず私もコミュニケーションをよくとりまふ。その上で、こういう方向じゃないかといふ、方向性について共有することはとても大切だと思つております。そういう意味では、自分の思いを伝えるといふことが、まずきつかけとして必要だろうと思つています。その上でさらに議論をして、良い悪いについてみんなに意見を出し合つて、最後は決める、そのことも校長先生として、とても大事なことであらう。私も、本当にいふつもは嫌だなと思つながら、決めざるを得ない環境なので、

一番できることなら遅れることな、先手先手で決めていただくことは、大事だと思つています。

管理職になつてつづく思つましたけれども、思いもしないことが現場で起きています。職員を含めていろいろな失敗もします。そういうことも含めて、責任をとるといふある意味この年齢になつてくると、覚悟といふことが大事だと思つています。それが責任をとるといふことだと思つています。覚悟をもつて仕事に臨む。そして、みんなに、生き生きと伸び伸びと仕事をしていただける環境を作つていくといふことは、私たちの仕事なのかと思つております。

そういう意味で、人的資源を最大限に利用する、足りない物をないものねだりするのではなくて、今、あるものをどう活用していくのか。そういったことを、先生方との間でコミュニケーションを取りながら、やつていただくことが大事だと思つています。自らを律するといふのは、先ほどちよつと申し上げました。もちろん、自ら律するとは、その言葉通りのこととありますが、覚悟をもつといふことが私たちにとつては、とても大切なことなだらうと思つていふところだ。

それから、私たちが大切なことはやはり大局的に物事を見る、もしくは見られる、そういうところにあるのだらうと思つています。ついで、現場を抱えていますと目の前で起きていふことを、すぐく氣になつてしまふので、それらを一つ一つ解決しなければいけないし、そういうことを心がけるのですけれども、やつぱり何事をする

るにも、俯瞰してみる、とても大事だと思えます。そうすると、想像力が人間に働きます。物事を一個一個進めると、この経験したことがあるとかないとか、そういうことまで考えてしまいますけれど、俯瞰して物事を考えていますと、あのときこんなようなことがあったなど、そういったことも考えられます。

また、あまりどっぷり現場にかかっていないことで、新しい自由な発想というの生まれやすいわけです。そういったことの経験を生かしながら、大局をとらえて鳥瞰する俯瞰する、こういうことを進めていただくことが大事ではないか。そのときに、私が職員にいつもよく言っているのは、個々のできることをするのはなく、すべきことをするというをお話しています。

結果から言うと、人間はできることしかできないのです。その通りだと思ふのですけれども、ただ、心がけとして大切なことは、できることをするというのを考えていると、できることから物事を考えるのです。昨日までやっていたことから、明日のことを考えてしまふ。そういうことをしていると、結果において自分ができる範囲はとても狭くなっていると思えます。

もう一つ、中学校の校長先生方をお願いしたいのは、就職の段階で大学に行って就職をするような段階、いろいろな社長さん方とお話をしていくづく感じるのは、夢をもっている子供が少ない。もしくは、将来に対する見通しをもっている生徒が少ない。こうい

うことを言われます。もちろんそれは子供個々の問題ですけれども、やはり夢をもつことはとても大事だと思えますし、また、将来を考える、そういうような教育もぜひ進めていただければと思います。

先生方にぜひお願いしなければいけないのは、危機管理のところ。特に先日、報道されておりました池田中学校における自死の関係です。これは様々な要因があったと思います。そういう中で、そういったことを一つ一つ解決しなければいけないのだと思えます。そのときの観点として、大きく三つあるのではないかとということで、書かせていただいています。

まず一つ目は、子供一人一人がもつ個性を大切にしながら、また一人一人が出しているシグナル、こういったものも日頃から接している各担任の先生をはじめとして、先生方に気付いていただく。こういうことが大切だと思えます。二つ目はそれを気づいたら共有をする。いろんな先生、周りみんなまで気を使つて、その子供が追い込まれないようにしていくことがとても大事だ。これは、いじめの世界でも全く同じことがあると思えます。そして三つ目はマネジメントとして、管理職はしっかりと指導していただく。若い先生もいらつしやいます。個人的な先生もいらつしやいますので、そういう意味では個々で見ると、子供の間でもうまくいってないかもしれないので、情報共有した上で、管理職の皆さんが学校を一つの現場にまとめたいく、そういう力を発揮していただければと思

ております。

DX、これも今、一生懸命福井県も進めさせていたたいいます。DXも実は令和二年、コロナが始まったときに、一気に進みました。結果的にコロナで一気に中学校も含めて、一人一台タブレットが整備されました。本当に大混乱だったと思えます。特に、昨年の四月以降、校長先生のお仕事も大変なタブレットに慣れさせる先生方、特に四十代五十代の先生方に慣れていただくのは本当に大変だったと思えます。校長先生も中を何とか乗り切つていただいで、今少しづつ動き始めてきたと思えます。

私も現場を見せていただきました。とても、授業の進め方がスムーズになりました。今までの時間で五十分かかるところを三十〜四十分で同じことができるような、そういうような素地が出てきたと思えます。

それから、先生方の働き方改革、本当に重要だと思えます。子供たちが伸び伸び育つためにも、先生に余裕がないといけません。そのためにも、年休の取得促進、それから育児休業、男性職員も、今のところ福井県教委全体で男性の育児休業二・二%となつています。やはり、このところは代替教員の問題もありますので、県教委も含めて、今、一生懸命考えさせていたたいいます。ただ、職場の雰囲気、校長先生が、「休暇を取ろう」「育児休業しよう」という声をかけていただくことがとても大事だと思っております。そういうことで、福井県庁の九三%、一か

月以上の育児休業休暇を取らせていますので、参考にしたいたい、さらに増やしたいたい。

それから女性の管理職も三割まで来ています。さらに増やせるように努力をしていきます。何となくも風通しの良い職場を作ることが子供たちにも良い影響を与えると思えますので、心理的な安全性を学校の中で担保していただく、そういう職場づくりに努めていただきたいと思っております。

先生方はお一人一人に、古い気質の方は、ついつい熱心に授業をする、もしくは残つて教材を作ることが大切だという考え方がまだ残っている部分もあると思えます。でも、そういった意識改革も進めていただく。それから、いろんな形でタブレットも使いながら、ペーパーレスをどんどん進めていただく。私も一月以降は、ほとんど私が出る庁内の会議は全部オンラインです。中にいるのですけど、オンラインでやっています。とてもペーパーレスが進みます。私の机の上も本当に紙が減つて、片付けなくてすんでいます。すると資料がなくなるのかと思えますけれども、全然違つていまして、オンラインでやつた会議の資料は、いつやつた会議かというのをとおむね頭で覚えていければ、会議の日程表はずつと残つていまして、いつ頃だつたかなと思いが残つていまして、資料がそのまま残つていまして、そういう意味ではどこにいても、その会議資料が見られるのですね。ペーパーレスは働き方改革、ワーケーションにもつながります。ぜひともこうい

たオンライン化、ペーパーレス化も進めていただければと思えますし、また外部人材の登用、活用、部活動も含めて、県教委も市教委、町教委と共に進めさせていたたいいますので、ぜひとも労働時間、残業時間の短縮にお力添えをいただきたいと思っております。

先ほどから申し上げているように、しつけ、もしくは厳しく当たらなければいけないところはあると思えます。そういったことも大事にしながら、覚悟をもって基本的には和気あいあい、人に処すること謹然(あいぜん)。こういったことも参考にしていただけたらと思えますし、言わずもがなですけれども、なんとと言っても人が宝であるわけですし、こういう意味では、校長先生方に負うところはとても大きい部分があります。そういう意味では、先生方、教頭先生を含めてしっかりと御指導いただきながら、福井県の教育、こういったものをさらに先に進めて、素晴らしい福井県社会、もしくは日本社会を作つていければと思えますので、引き続きお力添えをよろしく願います。

併せて、何かあれば、県教委に対して言つていただければ、最善を尽くしてまいりますので、ぜひよろしく願います。



分科会報告

■第一分科会

「主体的・対話的で深い学び」の実現

～学びの深まりを引き出す授業づくりの工夫～

発表者 足羽中 野路美智男

◎発表要旨

二〇二〇年実施の福井県学力調査の分析から、低学力生徒の基礎基本定着と家庭学習の習慣化が課題であると捉え、目の前の生徒の実態に合った授業づくりが必要であると考えた。そこで、「学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力等の向上を図るための授業改善および「自分の考えをまとめ、深め広げる力の定着」を重点目標と定め、授業者・学習者・校長の三つの視点でその取組について述べる。

- ① 授業者における授業の改善
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの追求



福井県教育総合研究所から講師を招いての新学期指導要領についての校内研修を実施

異教科で組む授業研究チームによる生徒の学びの姿についての情報交換
授業の組立における課題との対話・仲間との対話・自分との対話の三つの視点の提示
指導主事訪問での道徳の提案授業の実施

◎ 基礎・基本の定着
年間計画をもとにしたドリルコンテンツの実施
標準コースと基礎コースによる数学の習熟度別学習（三年生）

◎ 学習者における学びの改善
◎ 学び合える学級づくり
各学級にスケッチブックを設置し、担任や学級長からメッセージを発信し、ピアサポートプログラムを活用した学習を支える人間関係づくり

◎ 読解力表現力向上の取組
週一回、朝読書の時間を利用した新聞コラムの全文視写
季節や行事に合わせたテーマによる帰りの会のスピーチリレー

◎ 校長としての関わり
◎ 校長の考えを教職員に明示
校長としてのビジョンを伝え、面談等で達成状況を確認、振り返り

◎ 全校集会での校長講話
パワーポイントを使い、意見交換できる講話の実施
◎ 授業の様子を学校ブログで発信
全職員の授業の流れをブログで紹介
生徒及び教員の振り返り効果

④ 成果と課題
教員が指導方法改善の必要性を改めて意識することができた。これからも「目の前の生徒たちに対して最善を尽くす」という強い意思をもつことが大切であり、現状に合わせながら組織的研究体制を引き継いでいくことが今後の課題である。

◎研究協議

◎ 主体的に学び合う生徒の育成を図るための組織的な取組について
校長の思いを各教員にいかにつなぐか、校務委員、主任会や企画委員会、校内掲示板等を利用することが効果的である。また、スクールプランをワークショップ形式でいっしょに創り上げることも有効である。

研究テーマを一年ごとに変えるのではなく、三年計画で先を見通して取り組む。また、予習を生かした授業づくりで生徒が主体的に取り組むように仕掛ける。
校長が授業ブログを書くことで、校長の意図が伝わるのではないかと。教員は授業で教え込むのではなく、ファシリテーターにならなければならぬ。

(進明中 合川修二)

■第二分科会

健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実

～「支える」「支えられる」活動を通して「もつ」と頑張りたくなるスポーツ」へ～
発表者 南越中 小林英典

◎発表要旨

新学期指導要領では、「豊かなスポーツライフ」を実現するための資質・能力の育成が重視された。さらにスポーツとの関わり方については、「みる、する、支える、知る」という多様な関わり方を理解し、中でも「支える」では、運動で仲間の学習を支援したり大会や競技会の企画をしたりするといった関わり方が、具体的な例として挙げられている。本校生徒の実態を見ると、「支える」経験が乏しく、学校側も生徒が「支える」ことに関わるような仕掛けをしてこなかったという反省点が見えてきた。

今回、東京2020オリンピックに

本校の卒業生二人（ビーチバレー：村上めぐみ選手、フエンスシング：見延靖選手）が出場することを「支えることができる機会」と捉え、具体的な仕掛けを考えてみた。さらに「支えた相手が喜んでくれたことを実感する」「支えた相手から逆に支えてもらう経験をする」ことで、生徒自身が支えたことへの喜び・やりがいを感じ、それが将来的に「豊かなスポーツライフの実現」につながるかと考え、以下の実践を行った。

- ① 「生徒が支える」ための仕掛け
- ◎ 応援フラッグの作成

地域の自治振興会主催の応援フラッグ募集に学校として申し込み、二選手の応援フラッグを全校生徒で作成した。

◎懸垂幕の作成

デザインや固定の仕方、材料選びなど、生徒が調べて計画を立てた。下絵や色塗りは、生徒会の役員から周りの生徒に広がり、多くの生徒が関わることができた。完成した懸垂幕は、地区中体連の選手壮行会で全校に披露した後、校舎の三階から垂らした。心こもった手作りの懸垂幕に見延選手はとても感激して下さり、生徒も手応えを感じたようだった。

パブリックビューイングへの参加
コロナ禍ではあったが、生徒にパブリックビューイングへの参加を促した。会場が一体となった応援を体験できたこと、さらに試合後には選手の御面親が会場の参加者にお礼を伝える場面もあり、地域で支える雰囲気味わうことができた。

② 「支えてよかったと実感できる」ための仕掛け
◎ おかえり先輩
見延選手を迎えて、昨年未、見延選手が凱旋来校して下さり、見延選手本人からお礼の言葉が伝えられた。金メダル獲得の偉業も重なったことで、生徒は見延選手の支えに少しは貢献できたという満

足の感覚を感じたようである。



◎選手への部活動訪問

見延選手が訪問し、激励の言葉を下さった。また別日には、村上選手も来校し、応援に対するお礼の言葉を下さった。

◎研究協議

今まではスポーツを「するか」「しないか」だけだったが、「支える」「支えられる」という視点を育てることで、子供たちの成長につながると思う。地域を支えたいと思っている子供たちが、こういう経験をすることで、また違う関わり方ができるようになると思う。

◎ 部活動指導員不足も子供時代の影響が大きいのではないか。今の子どもたちが「支えられた」という思いが育れば、将来自分も支えようと思ってくれるのではないかと。部活動地域移行も、子供が支えてもらったことを今度は自分が支える側になってくれることで、スムーズに進むようになるのではないかと。

(南越前中 今村憲和)

■第三分科会

多様化した学校教育課題に
対応できる教員の育成

～生徒が主役の学校づくりを
目指したチーム鯖中の挑戦～
発表者 鯖江中 鈴木和欣

◎発表要旨

本校には二つの大きな課題があった。一つ目は、不登校への対応で、不登校生徒の割合が、県平均の二倍近くであるという状況であった。二つ目は、授業力向上への対応で県学力調査の「授業では、めあてをもつて学習に取り組んでいるか」という質問項目への肯定的な回答が県平均と比較して全体的に低い状況であった。これらの課題解決に向けて「教科等の専門性と指導力を高める人材育成と研修の在り方」の視点で研究に取り組んだ。

①不登校対策

○校務分掌の改革
指導部と相談部を合わせて「指導相談部」とすることで、指導体制が生徒に寄り添った指導へと変わっていき、教員の意識改革を図ることができた。

○ステップアップルームの新設

登下校の時間や学校での過ごし方など、生徒の意思を尊重して関わるフリースクールスタイルの部屋である。いきなり相談室ではなく、ハードルを下げた対応で効果があがった。

○研究体制の見直し

学級経営研究部での研究を不登校の未然防止に特化し、重点項目に「ポジティブ教育プログラムの実践」、「自己有用感を実感できる場の設定」、「成功した学級経営等の情報の共有」の三つを挙げて取り組んだ。特に、ポジティブ教育では、指導案やワークシートを生徒の実態に合わせた形にリメイクして、どの学級でも実践の意図に沿った取組ができるようにした。

②授業力向上の取組

○鯖チャレの導入
学習指導研究部の研究を「鯖チャレ」の導入・推進に特化した。具体的には、授業の中で、生徒の主体性を高め、考えを深める場面を鯖中チャレンジタイム、また同様の効果が期待できる練習問題を鯖中チャレンジ問題として単元内に設定した。教科会等で共通理解のもと、ICTも活用した形で実践した。教科の枠を越えて、全ての教科で実践を進めようという意図からである。

③成果と課題

不登校の状況については、前年度に比べて半減に近い数値となった。「授業では、めあてをもつて学習に取り組んでいるか」というアンケートについても全ての教科で県平均を大きく上回る数値となった。全教職員を巻き込んで学校全体として同じ方向で取組を進めることができたことが大きな要因で、教職員一人一人の資力向上にもつながった。また、県学力調査をもとに、成果を「見える化」したことも有効であった。

チーム鯖中としての取組を継続していくための教職員間の共通理解を図る場・時間の確保が課題である。今後も、部活動の共同管理体制を組んで校務部



会、学年会、教科部会など、会議の開催を工夫したり、ICTを活用したりして努力しなければならぬ。

◎研究協議

・中学校では入試への対応があり小学校に比べて、自主性・主体性をもたせるための取組が難しい状況であるが、教師自身がお互いに学び合ってより良い授業に向けて取り組んでいくことが大切である。

・今求められている学びの中に、入試を見据えた学びも意識された授業が理想であるが、現実的には二つのバランスを考えた授業を求めていく必要がある。

・生徒を主役とするためには、テストの回数を減らしたり、テストの実施方法を工夫したり、通知表作成の負担を減らしたりするなど、子供と向き合う時間を確保していく必要がある。

・中学校区を単位に小中連携の中で、ポジティブ教育を推進している。レジャーエンスを目標として掲げているが、まずはコミュニケーションづくりから取り組んでいる状況である。
(中央中 澤 和広)

■第四分科会

地域と共に歩む

大野市開成中学校

～生徒会活動を主軸に置いて～

発表者 開成中 広瀬 泰司

◎発表要旨

従前より、教職員集団の中にはチーム意識が根付いていて、地域の行事参加や自然探究活動が積極的に行われてきた。また、市にも「結」という概念があり、コミュニケーションを大切にしている風土がある。そんな中、生徒会が地域と共に歩んだ経緯を紹介する。

①新庄地区と共に

○ふれあい花壇
地区と学校が協力して、地区の花壇

を管理する。苗植え・水やり・草むしりを地区民と協働で行う。

◎部活動奉仕活動

歩道の除草や用水路の石拾いを部活動単位で行う。地域の方も協力して下さる。

◎空き缶回収

毎年PTAで行う空き缶回収に地区の方が協力して下さる。おかげで収益が増え、体育館のワックスがけの回数が増える。

◎生徒会活動

本校には昭和三十九年に発足した「善意銀行」という組織がある。文字通り、善行を施し、徳を蓄える銀行で、リーダーは頭取と呼ばれる。

◎公共施設美化活動

早朝に神社の清掃活動を行う。樹木が多く、石段・石畳・砂利道がある。機械を使っての清掃は困難なため、人の手が必要。

◎イトヨの里環境整備

天然記念物イトヨ生息地に隣接する学習施設が校区にあり、施設内で花苗の植栽やザリガニの駆除、河川の清掃に取り組む。最近では、池に入つてイトヨを捕獲し、移す活動も体験する。

◎地域貢献

③あいさつ運動
学校周辺にクラス単位で出かけ、出勤するドライバーに笑顔で挨拶をする。民生委員や児童委員の方も協力して下さる。

◎消防総合訓練参加

訓練の合間にイベントがあり、吹奏楽部が演奏を披露している。

◎亀山整備作業

PTAで年に一度、亀山の桜の管理として、植樹や下草刈りを行っている。

◎名水マラソン補助員

多数の生徒がボランティアとして参加し、受付・手荷物預かり・給水ポイント補助・ゴール後の湧水提供等を行う。

以上の活動を通して、「生徒がつながり地域とつながる学び続けたい結の開成」を目指す。

◎研究協議

○チームとしての学校と地域の連携・協働体制の在り方
ボランティアに対し、市長からの激励を受け、やりがいをもつ。
・公民館主催行事に生徒会が中心となつて参加し、祭りを手伝う。
・公民館に学校便りを持参すると共に、公民館長との連携を図る。
・園児のウオークラリーに協力。
・地域の人を学校に招待し、授業体験をしてみよう。

・地区のごみカレンダーと合体したものを作り、広報活動を行う。
・防災教育として、中学生に地域の方を助ける感覚をもたせる。
・地域に貢献して役に立つことの実感をもつた子は戻ってくる。

・生徒が地区の一員として派遣され、小生の指導を行う。
・教員は地域の構成員として協働する。担当者同士のコミュニケーションを密にすることが不可欠である。

・体育の遠泳と砂浜清掃のコラボレーションを行う。
・菊花マラソンは、学校がゴールであり、活動がしやすい。
・地区の特産物を生産し販売する。
・核となる芸術施設で、生徒は地域の人材として学ぶ。

・公民館によつて温度差がある。
・やめることを決めるのも校長の責務である。

(上庄中 長谷川秀樹)



中学教育に

清風

新入会員だより

夢をもった生徒が通う

学校づくり

灯明寺中学校長 野路 佳男



近年急速に開
発されていった
大和田地区や田
園風景の河合地
区等、多様な形態
の地区から構成
されている灯明寺中学校区は、ここ
数年、生徒数が増加しています。

本校では、今年度の目指す学校像
として「夢を持ち、日々を大切に歩む
生徒があふれる学校」とし、キャリア
教育に力を入れていこうと考えてい
ます。ここ数年、将来の夢や目標を
もった生徒の割合が低いといわれて
います。先の見通せない社会となり、
子供たちが将来について考える機会
がもたれていないのではないかと思
います。

現在、学校で学んでいることが何
に繋がっていくのか。そのような
疑問をもつて学校に通っている生徒
が何かのきっかけで夢や目標をも
ち、学校での学習や様々な活動に積
極的に参加するようになってくれる
ことを期待しています。そのため
も、学校として夢や目標をもたせる
ためのキャリア教育を推進してい
き、活気に満ちた生徒が多く通う学
校を築いていきたいと思えます。校
長としてしっかりと学校経営に取り

組んでいきたいです。

葉っぱの...

至民中学校長 秦 計代



五月二日に、開
校記念とし校歌
のことを生徒た
ちに話しました。

校歌の歌詞か
らは、故里の子供
たちを頼もしく誇りに思う心が感じ
られます。昨年度までの卒業生は一
二、二五七人ですから、それだけの生
徒が校歌を歌い継いでできたことにな
ります。また、葉っぱのホール（音楽
室）内の可動間仕切りには、校歌に
度々表れるリズムが模様として表現
されていることも伝えました。

「わが故里は野山の界（さかい）」と
いう冒頭のフレーズは、山を切り開
いて造られた現在の校舎のことを予
感していたかのように感じました。
校舎内には、葉っぱエリア、葉っぱの
広場、葉っぱステーション、葉っぱの
ホール、葉っぱの教室...と「葉っぱの
...」と名付けられた場所がたくさん
あります。すばらしい地域や子供た
ち、恵まれた校舎の中で過ごせるこ
とが、日々の喜びです。

十月二十八日（金）に本校の公開研
究会を開催いたします。葉っぱの校
舎で皆様の御参加をお待ちしていま
す。

地域の強みを生かし

信頼される学校に

国見中学校長 正玄 努



学校の目の前
に広がる雄大な
日本海に沈む夕
日。あまりの美し
さに、時間が溶け
ていくような感
覚に引き込まれています。

本校は、豊かな自然環境に恵まれ

た、生徒一六人、教職員一〇人の小規
模校です。その機動力と、学校に大変
協力的な地域の方々のおかげで、遠
泳大会、岩のり採り、ハピテラスでの
和楽器演奏と国見PR、生徒たちが
考えたゆるキャラ（波の助・波の華子）
によるふるさと自慢、さらには、小中
合同津波避難訓練など、国見だから
できる、国見でしかできない特色あ
る教育活動に取り組んでいます。



一人一人の可能性を伸ばす

学校づくり

川西中学校長 田中 典子



校門の坂道の
桜が満開の時期
を過ぎ、今は新緑
にあふれ、その坂
道を生徒たちは
笑顔で登校して
います。明るく素直で、落ち着いた学
校生活を送り、何ごとにもまじめに
取り組もうとする生徒たちです。ま
た、地域活動にも積極的に参加して
います。

本校では、「確かな学力を持ち、そ
れを活用しようとする生徒」「互いに
違いを認め合い、自信を持って活動
できる生徒」「郷土に誇りと責任を持
ち、夢や希望を語る生徒の育成を
めざし、教職員、保護者、地域の方々

が一人となり取り組んでいます。
少子高齢化社会の中心に生きる生
徒を育成するために、社会情勢と情
報の捉え方、多様化する価値観の中
いかにしてたくましく生き抜いてい
けるのか教職員は常に問いながら、
職務に励みたいと考えています。そ
のためにも、校長自らが校区とのつ
ながりを醸成するリーダーとなり、
保護者や地域の方々との一層の信頼関
係を築きたいと思っています。本校
の生徒一人一人の可能性が、ぐんぐ
ん伸びる学校になるよう尽力しま
す。

地域とともに

美山中学校長 竹野 亨



山々の木々や
足羽川の清らか
な流れが、清々し
く美しい自然の中
に、本校は位置
しています。地域
や家庭で温かく支えられ育ってきた
生徒たちが、学校生活において、温
かな人と人との関係の中でぬくもり
を感じながら、仲間とともに充実し
た中学校生活を送ってくださることを
期待しています。

学校教育目標は「人間尊重の精神、
ふるさとを愛する心を基調に、気力・
学力・体力の充実した心身ともに健
康で明るくたくましい生徒の育成
（ゆかましい文化人・たのもししい社会
人・たくましい生産人）」です。主体
的に学び、考え、自己表現しながら、
正しい判断力を身に付け、自他を尊
重する情操豊かな生徒になつてほし
いと願い、そして将来は地域を担う
人材になることを期待し、教職員一
丸となって、日々の生徒の活動を支
えています。

校訓「啓学至誠」を胸に

清水中学校長 牧田 菊子



風薫る五月の
新緑、裏山に響く
鶯の渡り等、自然
の息吹の中で伸
びやかに学ぶ生
徒達や先生方か
ら、私自身が活力をもらっているこ
とに感謝の日々です。令和四年度も
コロナ禍でのスタートでしたが、生
徒たちも先生方も授業をはじめ諸活
動に張り切って取り組み、学校は活
気にあふれています。

さて、本校は「啓学至誠」の校訓の
もと、互いに学び合い、高め合ってい
くことを大切にしています。「明るい
挨拶、いじめ・差別は許さない、美し
い言葉で話す、えがく夢、思い切った
挑戦」が行動目標として示されてお
り、私自身もこれらを日々意識し実
践していこうと思っています。

これらの行動目標が、生徒や教職
員の姿に具現化されている場面を見
かけるにつけ、生徒を真ん中にして
学校に関わる多様な方々が深くつな
がり、学びを支え合っていることを
感じます。そのよさを、生徒・教職員・
保護者・地域の皆様と語り合いなが
ら、さらなる成長を目指して共に考
え、試行錯誤しながら成長していく
学校でありたいと思えます。

学校の強みを生かした

教育活動を

和泉中学校長 山田 善信



大野市の東端
岐阜県との県境
に近い和泉地区
に本校はありま
す。本校は小中併
設校で、さらに同
じ校舎の中に保育園、児童館も併設
されており、十五歳までの地区全て

の子供たちが元気に生活していま

今年度生徒数は八人で、市の学校再編により、令和六年度に市内の中学校に統合されることが決定しています。再編までの約二年間、校長としてどのような学校づくりができるのか、取り組みたいことが多く方向性は定まっていま

せんが、真面目で素直な生徒たちが、卒業後や再編後の環境の中でも自信をもって自分の個性を発揮し、前向きに自分の夢を追求できる、そんな力が育つ学校にしていきたいと考えています。本校の教育目標「和泉の強みを生かし、一人一人を輝かせよう」にある、「和泉の強み」を教職員とともに見つめ直し、少数者・へき地だからこそ可能となる、個に応じた指導や地域と協働したふるさと学習など、本校の強みを最大限に引き出した教育活動に取り組みしていきたいと思

子供を主語とする学校に

勝山北部中学校長 齋藤 治



社会教育施設から二年ぶりに学校に戻ってきました。また、七年ぶりとなる中学校で、戸惑うことも多くありましたが、ようやく学校生活にも慣れてきました。

新任校長研修会や市教委主催の校長会で、中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」についての話がありました。答申の中で、教師の役割は「主体的な学びを支援する伴走者」とされています。学校教育において、主語を「子供」にすることの重要性を強く感じました。

そこで、学校教育目標を「ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓く」として、「生徒の育成」という言葉を外しました。また、先生方には、研究主題や学年目標、全体計画なども「育

る」や「育成」という言葉ができるだけ使わず、「子供が主語となるもの」に変えるようにお願いしました。言葉を変えるという形からの意識改革ですが、今後の教育活動の様々な場面で、子供の姿を確認しながら、子供が主語となる学校を目指していきたいと思

自主自律

東陽中学校長 林 裕樹



鞍谷川沿いには満開の桜並木、南には三里山を仰ぎ、豊かな自然環境の中にある、母校東陽中学校に十七年ぶりに戻ってきました。

当時と変わらず、協力的な保護者と地域の方々に温かく迎えていただき身の引き締まる思いです。令和四年度は、九五人の新入生を迎え、全校生徒三一五人でスタートしました。

本校は、校訓「自主自律」のもと、「自ら学び、共に生きようとする生徒の育成を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。現在、SDGsの推進、校則の自由化、部活動の地域移行、年間通した縦割り活動などを保護者、地域の方々と連携して進めています。

生徒の思いを大切にしながら、校訓「自主自律」にあるように、めあてをもつて考え、行動することができ東陽中生を育てていけるよう、教職員が一丸となって努力していきたいま

す。母校である学校に戻ることで、嬉しさと同時に、責任の重さも感じています。母校発展のために精一杯頑張ってい

地域とともにある

学校づくりの中で

東浦中学校長 山岸 美穂



本校は、青い海と空、豊かな山々に抱かれて広がる、風光明媚な環境にある小中併設校で

す。今年度の全校児童生徒は二七二人、草刈り、読み聞かせ、見守り等地域の様々なボランティアに支えられながら、学校運営を行っています。地域を上げて栽培に取り組む「東浦みかん」は、甘酸っぱくおいしいみかんとして県内外に広がっています。学校でも、地域の産業を受け継ぎ、主体的にみかん栽培に携わっていく子供たちを育てることを目的に、「東浦みかんプロジェクト」をカリキュラムに位置付け、今年で八年目を迎えます。

山と海とみかんに彩られた地域密着型の本校は、令和二年度から、県内で初めての「小規模特認校制度」を導入し、現在一〇人の児童生徒が、校区を越えて通っています。一人一人の個性を大切に、個々に寄り添った支援ができる強みを活かしつつ、ICTを活用し、学校の枠を超えて多様な意見にも触れられる環境づくりを工夫して、健やかな浦っ子たちを育てていけるよう、全力で取り組

育みたい力

美浜中学校長 高木 健吾



満開の桜が歓迎するなか、令和四年度は七一人の新入生を迎えスタートしました。七一人の

二年生、六三人の三年生と合わせ全校生徒二〇五人、一人一人が生

きと学び、個性と能力を伸長・発揮し、未来に向かって夢や希望を育むことができる学校をめざして取組を進めたいと考えています。

本校の学校教育目標は、「確かな学力をつける」、「豊かな心情を育てる」、「健康な心身を育てる」の三つです。また、めざす生徒像は、「自ら考え行動する生徒」、「思いやりのある生徒」、「粘り強く取り組む生徒」の三つです。この目標や生徒像に到達するため、「自分の考えをもち、自分の考えを表現できる力」や、「人を大切にする力」、「何度でもやり直す力」を、未来に生きる力として日々の授業を通して育んでいきたいと思

います。子供が思考し表現する機会の効果的な設定方法や、本町が大切にしている人権教育、忍耐力・耐性の育成、ICTの活用方法等、まだまだ教職員が学ばなくてはいけないことが山積しており、全教職員一丸となって取り組んでいきたいと思

「和泉」の学びを

小浜中学校長 堂前 裕美



本校は、「志気高き浜中生の育成」をめざしています。三三〇人の生徒たちの気持ちよい挨拶が、「浜中の新たな歴史を創造」していく私たちが教職員にも力を与えてくれます。

さて、コロナ禍にいて、学びを止めない教育活動をいかに展開できるかと常に問い続けている本校の『歴史』は、生徒と共に創られつつあります。今年度は、「SAT(本校独自の評価テストシステム)」と「放課後スタディクラブ」、そして生徒と共同作成した「はまなびノート(学習計画ノート)」の三つの主なツールで楽しむ学びをつくっていくと取り組み始め

ました。これらは、教員の協働性発揮の下、生徒の学び支援を目的に開発され、今後もさらなる改善がなされていくこと

です。和泉(わらう)は、本校校歌三番歌詞中に出ています。「互いに打ちつけて楽しむこと」という意味の言葉です。生徒も教職員も学校での学びを楽しみ、そして輝く、そんな学校にという思いをこめて学校通信の名前にもして

自分らしさを引き出す

学校に

名田庄中学校長 赤井 孝行



本校のグラウンド横を通り、地域を縦断している国道を南下すると、一時間余りで京都の高

尾や仁和寺に着きます。程よい距離と、自然豊かな里山であるため、休日には京阪神からの車やバイク、自転車

の往来が盛んです。私は、昨年度まで、隣接する名田庄小学校の教頭をしていました。全校の生徒たちが小学校に入學したときは、担任をしていました。保護者や地域の方々の温かい支援に守られ、名田庄での勤務が七年目となりました。

生徒たちや保護者、地域のことをよく知っていることが強みです。この強みを生かして、今年度の学校教育目標を「未来を自分らしく生きる生徒の育成」としました。生徒たちにとって、協調性も大切にしつつ、自分らしく生きることがこれからの社会では今以上に重要になります。生徒一人一人が長所や好きなこと、夢中になれることを探し出し、次のステージに進むことができるように、校長として教職員がワンチームとなり支援できる体制をつくっていきま